

5月10日(火)

主はよみがえられた

聖書朗読 ヨハネ 20:1~9

また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと

Iコリント 15:4

イエス様が十字架に架けられた後の日曜の朝に、ペテロとヨハネはお墓へと急ぎました。お墓に着くと、そこには亜麻布がありました。しかし亜麻布だけで、主の御姿は見当たりません。この時点で弟子たちは主の復活の事実を信じましたが、旧約聖書の御言葉と照らし合わせて主の復活について完全に理解することは、まだ出来ていなかったようです。

イエス様が犠牲になり十字架に掛かれたことは、旧約聖書において様々な仕方で預言されていました。イザヤ53:5では『しかし、彼は、私たちのそむきの罪のために刺し通され、私たちの咎のために碎かれた。彼への懲らしめが私たちに平安をもたらし、彼の打ち傷によって、私たちはいやされた。』と書かれています。私たちは、イエス様が確かに神の子羊で、私たちの罪のために犠牲になって下さったことを確信しています。

しかし、神様のご計画はイエス様の死で終わっているわけではありません。イエス様は三日後に復活されたのです。ペンテコステの日に、ペテロは詩篇16:10を引用して『まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません』と言いました。イエス様が最終的に向かわれるところはお墓ではなかったのです。主は死に打ち勝ち、復活なさるといふ神の約束があったのです。

イエス様がよみがえられたことにより、私たちは希望と信仰を持つことが出来ます。イエス様はただ死なれたのではなく、復活され、聖書にある神の約束が成就したのです。

讚美歌 148

祈り 親愛なる神。イエス様とイエス様の復活に感謝します。その復活により、私たちは希望を持つことが出来ます。イエス・キリストは復活されました。

ハレルヤ！復活されたイエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スコット・ゲージ

アーカンソー州 フェーエットビル

5月11日(水)

復活されたイエス様

聖書朗読 ヨハネ 20:24~31

青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを探しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられません。ご覧なさい。ここがあの方のお納められた所です。」 マルコ 16:6

「疑い深いトマス」のことを、皆さんご存じだと思います。まず、今日の朗読箇所24、25節に書かれている疑い深いトマスから話が始まります。しかし、イエス様の復活の翌週、トマスの疑い深さはなくなり、信じる者となったことが書かれています(26~28節)。トマスは劇的に変化しました。トマスの変化の原因はイエス様の復活でした。

トマスは、「何事も実際に自分で確かめないと気が済まない」という性格の持ち主だったようです。しかしこのようなトマスと同じように考える人は、今日でも多いと思います。悪意を持って人を騙すような人が多い世の中ですから、トマスのように疑り深くなってしまふ人が多いのも無理の無いことかもしれません。以前、祖父からアドバイスを貰ったことがありました。それは「人々が『自分が見た』ということについて話している時は、少しだけその話を信じなさい。人々が『自分が聞いた』ということについて話したなら、その話は殆ど信用しない方がよい」というアドバイスでした。祖父もトマスも同じくらい、世の惑わしに警戒心を持っていたのかもしれませんが。

イエス様はよみがえられ、『疑わずに、信じなさい』と私たちに言われています。ヨハネの福音書を通して、私たちに次のことが教えられているように思います。それは「神が生きて働いておられる」ということです。ヨハネの福音書に記録されている数々の主の奇しき御業は「生きて働いておられる神」を指し示し、それを指し示す最も重要なことが「イエス・キリストが神の御子であり、私たちの救い主として遣わされた」という事実なのです。そして、これを信じる者を、神は豊かに祝福して下さいます。イエスさまは確かに復活なされ、それを信じる者は全く新しいいのちに生きることが出来るのです。

讚美歌 243

祈り 天におられる父よ。より一層信仰を強められるよう助けて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ロン・グスマン

テキサス州 ラボック

5月12日(木)

栄光を選ぶこと

聖書朗読 ヨハネ 21:16～25

まことに、まことに、あなたに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きたい所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所へ連れて行きます。

ヨハネ 21:18

人生において、何処に居ようと、どうにもならないことが起こる時があります。それは、スケートボードの最中に起こるかもしれません。夜、車を運転している時かもしれません。観覧車に乗っている時かもしれません。誰かに頼らず、自立した生活を送っている時かもしれません。私たちにはどうにもならない出来事は、些細なことである場合もありますが、私たちの人生に重大な影響を与える場合もあります。

ペテロも、自分ではどうにもできない問題と直面することになるのですが、それはペテロが高齢になったことで生じた問題ではなく、ペテロを取り巻く環境が原因でした。上掲の一節では、ペテロが逮捕され、殉死することをイエス様はほのめかしています。しかし、自分ではどうにもできない問題がどんな問題であろうと、私たちが何歳であろうと、私たちには私たち自身の選択の余地が残されています。つまり、問題を解決することは出来なくても、「その問題に私たちがどう向き合うのか」という選択の余地です。

将来のことをペテロに告げた後、イエス様はペテロに『わたしに従いなさい』と告げられました(19節)。私たちを取り巻く状況が変化しても、キリスト者としての人生や義務が終わる訳ではありません。神様は私たち一人ひとりに対しご計画をお持ちです。そして、そのご計画のために私たちをお使いになりたいのです。ヨハネは、主がペテロに語った上掲のお言葉を書き記すことを通し、ペテロの地上人生が最後まで神によって用いられたことを示そうとしています。

私たちは、高齢になってくると、これまで自分たちがしてきたことを、これからも同じようにしていくことが必ずしも出来る訳ではありません。しかし、何かを「神様のご栄光のためにする」という目的意識は、いつでも持ち続けることが出来るのではないのでしょうか。

讃美歌 589

祈り 父よ。私たちが目を開けるよう助けて下さい。私たちが出来ないことより、あなたのために出来ることに目を向けられますように。私たちのためにして下さった全てのことに感謝します。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ブルース・グリーン
アラバマ州 オペリカ

5月13日(金)

羊の世話をすること

聖書朗読 ヨハネ 21:15～19

次にはこれです。「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」 マルコ 12:31

数年仕えている私たちの教会は、特に食べ物を必要としている人達をサポートすることに力を入れています。毎週半ばに、低所得層の方、環境の良くない地域に住んでいる子ども達、60～80人に食事を提供しています。また、勉強も教えています。私たちは神の羊に食事を与え、愛、そして御言葉を伝えています。

イエス様は弟子たちと朝食を分けられました。ペテロは主が何度も「わたしを愛するか」と同じ質問をすることに心を痛めつつも、主の質問に対し、「愛します」と断言しました。このやりとりを通して、イエス様はペテロに羊(迷う人々)を養うように繰り返し指示し、さらに羊(迷う人々)をペテロに託されました。

このやり取りは、復活の主との食事の直後の出来事でしたから、このやり取りで使われた「養う」という言葉は重みをもった言葉であり、それは物理的な体を養うということ以上に、霊的に人々を養うと言う意味が込められていました。つまり私たちは、福音、御言葉によって養われる必要がある、ということです。ペテロには未熟な面もありましたが、イエス様の復活の後、ペテロはクリスチャンはもとよりクリスチャンではない人たち対しても、御言葉の奉仕をしていきます。

愛を持って神様の子羊を養うことは、ペテロに対してだけでなく、私たちに対しても、神様が望んでおられることです。私たちは隣人を愛することが求められています。私たちが隣人を愛する時、それは神を愛することにも繋がるのです。私たちは神様の子羊を世話するよう求められています。神様は、私たちの神様に対する愛を求めておられます。

讃美歌 321

祈り 親愛なる神様よ。あなたが私たちを愛して下さると同じように、私たちも周りの人を愛せますように。日々、あなたの御言葉を述べ伝えられるようお助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ダグラス・エドワード
ミシガン州 スターリングハイツ

5月14日(土)

バランスを取ることは大切

聖書朗読 使徒 1:1-5

それは、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。このイエスは、神がともにおられたので、巡り歩いて良いわざをなし、また悪魔に制せられているすべての者をいやされました。使徒 10:38

地元の教会から、私たちはグループで一週間の医療伝道の旅に行きました。ハイチで、も医療を必要としている人を治療し、また霊的にも彼らの必要を満たすお手伝いをしました。もし、医学的な治療しかなければ、霊的な部分はおぎなりにされたままとなるでしょう。その一方で、彼らが必要としている医学的な治療をせずに聖書の話をしただけでは耳を傾けて貰えないでしょう。「人は、自分が大切に気に掛けられていると気付いた時に、初めて聴く耳を持つ」と良く言われます。

私たちの医療伝道の旅は、イエス様ご自身の宣教の旅に倣っています。ルカは、使徒の働き最初の部分でテオピロに、「前の書」つまりルカの福音書でルカが書いたことを思いだすよう言っています。ルカは『イエスが行い始め、教え始められたすべてのこと』について書いたと言っています(1節)。イエス様の宣教方法は、バランスが取れたものでした。イエス様は、宣教ではまず人々が物質的に満たされる必要があることをご存知でした。

私たちが宣教をする際にもバランスは大切です。イエス様は物質的にも、また霊的にも満たすことの出来る方でした。私たちもそれを見習いましょう。

讃美歌 120

祈り 天におられます神よ。イエス様が福音において良き手本を示して下さいことに感謝します。他人が助けを必要としている時に気がつくことができるよう、お助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ローズマリー・マクナイト
テネシー州 ヘンダーソン

5月15日(日)

王と一緒に囲んだ食卓

聖書朗読 Iコリント 11:23~26

第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって言った。「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に支配される。」黙示録 11:15

主の食卓の際に、司式の兄弟が「今日、私たちは王と共に食事をします」と言われました。それを聞いた時に「私たちアメリカ人は、王と共に食事をする場合の手順を知っているのだろうか？」と疑問に思いました。イギリス王室の後継者が誕生した時、私たちは興奮したのですが、私たちは本当に王族について理解しているのでしょうか？答えは「いいえ」だと思います。私たちアメリカ人は、支配者の前に跪いたり、王を象徴する王の指輪に口づけすることには抵抗があり、王族に対する関心も、せいぜい一時的なもののように思います。

地上には様々王国がありますが、霊的にはイエス様が「王の王」であり、私たちクリスチャンは、その王であるイエス様に従う者です。日曜日に、私たちは主の食卓に与りますが、この食卓は、私たちが王なる主と交わりを持つ時でもあります。私たちが主と交わりを持つとき、(私たちの王である主の御前に立つとき、)私たちの態度はどんな態度であるべきでしょうか。最大限の尊敬と畏怖の念を示すべきではないでしょうか。私たちは主の食卓に与る際、主の臨在と言う素晴らしさに対する感動と感謝が必要ではないでしょうか。主の食卓に臨む際に正しい心構えで居られるよう、私は詩を書きました。

今、王と共に食事をする

私は喜んで歌い、讃美する

イエス様の御体と尊い血潮

この食卓を、私は決して無駄にはしない

讃美歌 142

祈り 親愛なる、創造主である神よ。主の食卓の大切さを思い思い起こさせて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

グローバー・シップ

テキサス州 オースティン